

第 2 部

「子どもが主体的に活動する 生活単元学習の実際」

1 学校の概要

学校の所在地・規模

- 所在地 長野県松本市大字今井1535番地 (〒390-1182)
- 児童生徒・教職員数
 - ・児童生徒 小学部60人 中学部49人 高等部78人 訪問教育部7人 計194人
 - ・教職員 125人 (教員93人 行政職員12人 寄宿舍指導員20人)

学校教育目標

健康な心と体を育てるとともに、日常生活や集団生活に必要な資質を特性に応じて養い、地域社会で豊かに生きることができる力を育てる。

小学部の教育目標

児童一人ひとりの特性や教育的ニーズを大切にされた生活や学習を通して、興味や関心の幅を広げ、もてる力を高め、豊かに生きる力の基礎を養う。

教育課程 (小学部)

	月	火	水	木	金
9:00		登		校	
9:20		着	替	え	・
9:45		朝		の	会
10:15		か	ら	だ	の
		リズ		生	活
		ム交		単	元
		流		学	習
		(低			
		学			
		年)			
11:30		給		食	
12:40		歯	磨	き	
13:00		自	由	遊	び
13:15		そ	う	じ	
13:40		個		み	ん
		別		ん	な
		(課		の	音
		題		音	楽
		別)		(高	(低
		学		学	年)
		習		習	
14:40		帰		り	の
15:00		下		校	

*子どもがめあてや見通しをもちやすいように、带状に日課を定めています。

*午前の学習では、メインの活動として生活単元学習を中心に行い、午後の学習は、個別の学習を行います。

教育の基本方針

松本養護学校では、全校研究テーマに「個別の指導計画を活かした授業づくり・学校生活づくり ～支援と評価の一体化をめざして」を掲げ、研究を積み重ねてきています。

具体的には次の点を大切にしているについて取り組んでいます。

- ・児童生徒の実態把握、単元や授業の視点を決めだし、そこから考えられる児童生徒の教育課題をより明確に設定する。

- ・教育課題や日々の授業の目標が具体的で、「育ちが見て分かるか」「観察できるか」等、評価を次の課題につなげることができる。
- ・「どのような段階の時、どのようなかかわり方で、どのような教材を使って」を意識し、日々の支援や指導の手立ても明確にしていく。

また、集団で営まれる学校生活の生活単元、作業学習等では、集団としての意識の高まりを重要に考え、個々の目当てが、共通の目当てとして位置づくような生活づくり、単元展開を大切に考えて、日々の学習に取り組んでいます。

長野県松本養護学校の実践

2 単元「ダンボールタウンを作って遊ぼう」（小学部）

（1）生活単元学習の考え方

本校小学部では、これまでの実践から、「児童の楽しみをとらえて学習条件や支援を整えることにより、主体的な活動につながり生きる力が高まっていく」ことが分かってきました。

子どもたち一人一人の楽しみの根底は、似た活動の姿であってもそれぞれ違います。それに応じて、また、今の楽しみを支えているそれまでの活動の積み重ねを考へて、学習条件や支援を整えます。その中で存分に活動することで、その子の楽しみがさらに深まったり広がったりします。そんな一人一人の楽しみを大切にしながら、学習集団としてそれらを確かに包み込む活動づくりを、その時期のその子どもたちの生活の中心として位置づく生活単元学習として実践していきたいと考えています。

（2）子どもの教育目標設定の考え方（支援のフィードバックを大切にしたい取組）

生活単元学習においては、子どもたちの生活の中から見出されたその時期の生活の中心となる活動が据えられます。その活動は一人一人の楽しみや必要感から決め出されてくるものであり、指導のねらいが先にあるものではありません。しかし、今と少し先の個々の生活を見つめた上で作られた個別の指導計画の教育目標に照らし合わせると、おのずと単元の活動の中で育ちが期待できる内容があります。このことについては、「単元の醸成期間」として事例「うどんやさん いらっしゃい」において詳しく説明しています。

そこで、生活単元学習を進める際には、単元成立後に必ず個々の教育目標と照らし合わせて、単元の活動の中で教師がもつ単元の願い（目標）とそれに対応する教育目標を明確にします。この際に配慮していることは、よりよく教育目標を達成させることを理由に、教師の都合で活動そのものを曲げないようにすることです。あくまでも生活単元学習の活動は、子どもたちの楽しみをとらえから膨らんできているものと考えます。子どもたちが楽しみを存分に味わってこそ、主体的な活動につながり、生きる力が高まっていきます。そうした子どもたちの思いで進む活動は、子どもの育ちを教師がもつ単元の願い（目標）に照らして見返すと、おのずと教育目標に関連した育ちがあり、さらに次のさまざまな活動への発展の土台になっていきます。

単元の中でそのように期待できる育ちを確実に支援していくためには、日々教師間で支援をふり返し、その評価と次時からの支援の方向を共通理解する、つまり、支援のフィードバックを大切に授業づくりを行う必要があります。本単元では、複数の教師がお互い目にしながらスムーズに評価できる見やすさ、なるべく短時間で記入でき、また方向性・継続性が分かりやすいように、フィードバックの表として、表1及び表2のように、一覧表での形式を取り入れて実践しています。

表1 支援のフィードバックの表

氏名	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん
単元の願い				
対応する教育目標				
(日付)	☆上段には、その日の単元の願いに関する活動の様子を記入する。			
	☆中段には、その様子に対する考察を記入する。			
	☆下段には、次時の支援の方向を記入する。			
(日付)				

表2 実際のフィードバックの表からの内容の一部抜粋

氏名	Hさん	
単元の願い	A 教師と一緒にガムテープなどを貼る活動を楽しんで行い、一人でもできることも増えてほしい。 B ラーメン屋さんの店員として、お客さんの友だちに「どうぞ。」という動作で渡してほしい。	
対応する教育目標	・自分の気持ちや要求を伝えるために、相手に分かるサインを確実にできるようにし、サインの数を増やしていく。 ・いろいろな経験を通して環境への適応力をつけ、一人でもできることを増やす。	
6月22日	活動の様子	A 一人になると制作活動はせず、テープをひらひらさせる感覚遊びをしていた。 B 教師と一緒に2度友だちからの注文を受け、ラーメンを届けた。
	考察	A 常に教師と一緒にガムテープ切りの活動をするのは難しい。 B 自分のやっていること(店員としてラーメンを運んでいる)は理解できていないようだ。
	次時の支援	A 一人でも活動ができると思われる「糊付け」用に、塗り絵の切抜きも用意しておく。 B 店員より動きが単純で理解しやすいお客さん役に誘ってみる。
6月23日	活動の様子	A ガムテープは教師の「ピリ、ぺったん。」の声に合わせて切ったり貼ったりする。塗り絵も教師と貼った。 B お店の机で教師と日常行っている感覚遊びをしていた。
	考察	A 教師の声がけで切る、貼るができる。糊が手に付くことは嫌いのようだった。 B ラーメン屋さんごっこという意識はほとんどない。
	次時の支援	A チューブ糊ではなく皿にボンドを出し筆を用意して糊付けをやすくする。 B 再度店員になって友だちとかかわりができる場を作ってみる。
6月25日	活動の様子	A 塗り絵に筆でボンドを付けラーメン屋さんの壁に貼ることができた。 B 店員さんとして教師と一緒に何回もラーメンを運んだ。1回に2個運ぶこともできた。
	考察	A 筆で塗るので手に糊が付かないので活動に集中できた。 B お客より店員役のほうが動きがあり役目があって活動しやすい。
	次時の支援	A ボンドに色をつけ、塗ったところが自分で分かるようにする。 B 「どうぞ。」の膝を曲げる動作がしやすいよう、お盆でなく手で直接どんぶりを持って運んでみる。
6月29日	活動の様子	A ボンドを隅までつけられるようになってきた。ガムテープの切り方がうまくなってきた。 B 教師からラーメンを受け取り、「〇〇くんへ渡して。」の声がけで注文した友だちのところへ行って渡した。
	考察	A ボンドに絵の具で薄く青い色をつけておいたので、塗ったところがよく分かった。繰り返しの活動で自分でできる技術がついてきたようだ。 B 声がけだけでなく教師と一緒に歩いていくことで安心できるようだ。
	次時の支援	A 塗り絵を貼ることとガムテープを切って貼ることのどちらから始めるか本人に選択してもらう。 B 「どうぞ。」の動作ができるよう教師がついて一緒に動作を行う。(日常の他の場面：友だちに物を配る、保健室に健康観察カードを届ける：でも同じ動作をつけるようにする)

(3) 「ダンボールタウンを作って遊ぼう」の単元設定にあたって

この単元は小学部5年生（男子7名女子1名計8名）で行ったものです。5年生の子どもたちは全員が体を動かして遊ぶことが大好きで、これまでも体育館や校庭で遊具・乗り物などを使って遊びこむ様子が見られました。低学年のときには、ダンボール箱を使って出入りしたり積み木のようにして遊んだりする活動に夢中になりました。また、普段から工作的な活動が好きな子どもが多く、紙を切る・糊やテープを使って貼る・ものづくりをするなどの活動に意欲的にかかわっていました。

そこで、今回は身近にあって工作などにも扱いやすいダンボールを使って、自分の作りたいものを存分に作って楽しんだり、できたものを使ってみんなで遊んだりしたいと考えました。そして、その活動の中で友だちや教師とかかわりを広げたり深めたりできることを願って活動を始めました。

教室にいくつかのダンボール箱やトンネル状のダンボールを持ち込むと、すぐにDさん、Eさん、Hさんはトンネルを使って3人で追いかっこをし始めました。Bさんは、大きい箱にはさみで窓を開け始めました。それを見てDさんも別の箱に時間をかけて穴を開けていきました。教師も一緒になってダンボールを使ったいろいろな遊びをする中で、お家のようなものやお店などをダンボールで作って遊ぶ活動に多くの子どもたちがかかわってきました。そこで大きなダンボールをたくさん用意したところ、それぞれの子供たちが自分のお気に入りのお家やお店を作り始めました。一人で、また何人かで一緒に作り、少しずついろいろな建物ができていきました。教師が「こういうところを『町』、英語で『タウン』と言うよ。」と話すと、自然とこの遊び場を「ダンボールタウン」と呼ぶようになりました。ダンボールタウンには、子どもたち一人一人の作りたいもの、遊びたいものがありました。

(4) 単元の願いと授業の展開

この単元では次の2つの願いをたてて活動を組んでいきました。

- ダンボールタウンで自分の作りたいものをイメージしながら、身近な材料や簡単な道具を使って遊び場作りに進んで取り組んでほしい。
- 自分たちで作ったダンボールタウンで、友だちや教師と一緒に思い切り遊んでほしい。

午前の活動の時間になると「ダンボールタウンに行きましょう」（「公園に行きましょう」の替え歌）の歌を元気よく歌いながら、教室から広いプレイルーム「ダンボールタウン」に向かいました。入口ではちまきをし、腰に道具袋をつけて大工さんに変身します。身支度をするのは、子どもたちの「これから作るぞ。」という気持ちを高める支援になり、また、自分が使う道具の確認や整頓にもつながっていきました。

各自の制作活動に、教師がとらえた個々の楽しみを取り入れたため、夢中になって作っていました。Aさんは、大好きな自分の家族が住む家を作っていました。家の形が出来上がると用意してあった大きな白ダンボールにお父さん・お母さん・弟の絵を大きく描いて家の中に入れました。出来上がってくると、うれしそうな表情で自分も中に入り込んでいました。白ダンボールは、Aさんの「絵を描きたい、家族を描きたい」という願いが達成



できるように用意しておいたものです。このように、子どもの願いが達成できるための支援は他にもいくつかあります。握りやすく力が入りやすいダンボールカッターを用意したこともその一つです。自分の家の窓を開けたいと願うHさんは、あまり手先が器用な方ではなく力のいる活動では先生の助けを借りることが多かったのですが、時間はかかったものの一人で用意されたダンボールカッターを使って窓を開けていきました。一つ開くとうれしくて、次の窓を開ける場所を決めて印を付けていきました。



4時間ほど制作活動を進めると、お店を作っているBさんやお風呂屋さんを作っているDさんは、友だちや先生に来てもらいたいと考えるようになりました。自分の作ったお風呂に友だちが来て汗を流したり頭を洗ったりする動きを見たDさんは、それまで漠然としていたイメージを「シャワーをつけたい。お湯と水の2つの蛇口がいる。鏡もほしい。」と具体的に膨らませていきました。その願いを受けて本物の蛇口、シャワー、お風呂道具、鏡を用意すると、自分のイメージしたものが目の前にあり、自由に使えることがわかったDさん。普段は周りの様子に気をとられがちですが、この単元のお風呂作りは集中して自分で考えて制作していきました。

また、作って遊ぶという2つの場面を一時間の中に設定したことは、Dさんだけでなく他の子どもたちにとってもイメージが膨らみ活動の意欲を高めていったと思われます。

本単元では、前半の制作場面は一人で活動に打ち込む姿が多く、後半のみんなで遊ぶ場面ではお風呂で友だち同士が背中を洗いあったり、ラーメン屋さんでお客と店員さんになってお店やさんごっこをしたりと、私たち教師が本単元で願った、友だちや先生と一緒に遊ぶ姿、人と関わる姿が増えてきたことも大きな成果でした。

(5) 本単元を中心としての一日の生活づくり

午後に行っている個別の学習の時間には、ダンボールタウンの活動から出てきた一人一人の願いに合わせた学習を組みました。この活動は、本単元の活動での制作や遊びをより満足のいくものとすると同時に、子どもにとってめあてがもちやすくとまりのある生活を創造することができました。

- ・ ラーメン屋さんでお店に出す餃子を紙粘土で作る。
- ・ パソコンで自分の家の表札を作る。
- ・ 看板作りでの文字の学習。
- ・ 買い物時のお金の学習。
- ・ お客さんと店員さんになっての会話（言葉）の学習。



日付	時間	主な活動
6/7	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくのお家を作ろう。 ・お風呂屋さんを作ろう。
6/8	2	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 教室ではせませざる。広いプレイルームへ引っ越したい </div>
6/9	3	<ul style="list-style-type: none"> ・教頭先生、教務の先生のところへ頼みにいこう。広い部屋へ引っ越しをしよう。
6/11	4	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">お家作り</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">〔ぼくたちは大工さん〕</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">お店屋さん作り</div> </div>
6/14	5	<ul style="list-style-type: none"> ・もっとお家を作ろう。 ・お風呂屋さんに水道をつけたい。
6/15	6	
6/16	7	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> (個別学習) (H, E, B) お客さんと店員さんの関わり方の学習。言葉の学習 </div> <div style="width: 40%; text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">今日は仕事を休んで、ダンボールタウンで遊ぼう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで、お風呂屋さんへ行こう。 ・ラーメン屋さん開店。コックさん、店員さん、お客さんになろう。 </div> <div style="width: 30%;"> (個別学習) (G, D) 紙粘土で餃子作り数の学習。食べ物の名前 </div> </div>
6/17	8	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">お家作り</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">お店屋さん作り</div> </div>
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ぼくたちの街ができてきた。もっと作りたい</div>
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 道具や材料が欲しい <ul style="list-style-type: none"> ・探そう。 ・他の先生に聞こう。 ・買いに行こう。 </div>
6/21	9	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ホームセンターへ材料を買いに行こう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・材料を買おう。 ・お店の看板や壁はどうなっているか。 ・家の表札を見よう。
6/22	10	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;">(個別学習)</div> <div style="width: 40%;"></div> <div style="width: 30%;">(個別学習)</div> </div>
6/23	11	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">(A, C) パソコンで表札作り</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">お家作り</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">〔ぼくたちは大工さん〕</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">お店屋さん作り</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">(F) パソコンで看板作り (D) 看板作りで文字の学習</div> </div>
6/25	12	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 壁にきれいに模様をつけたいな。壊れたところをなおそう。 表札をつけよう。 看板をつけよう。 窓をつけよう。 椅子を増やそう。男湯・女湯を作ろう。 部屋をつなげよう。 テーブルを作ろう。洗うところを広くしよう。 </div>
6/29	13	
6/30	14	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">お風呂に入って汗を流そう</div>
7/1	15	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">おなががすいた。ラーメンを食べよう</div>
7/2	16	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自分のお家に帰ろう</div>
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ぼくたちのダンボールタウンができた</div>
7/5	17	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> 大工さんになって作ったことが楽しかった。またやりたい。 </div> <div style="width: 50%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> みんなでお風呂屋さんやラーメン屋さんごっこをして楽しかった。本当に行ってみたいな。 </div> </div>
7/6	18	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">お風呂屋さんへ行ってお風呂に入ろう・ラーメン屋さんへ行っておいしいラーメンを食べよう</div>
7/7	19	<ul style="list-style-type: none"> ・どこへ行こうか・持って行くもの・気をつけること
7/8	20	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">校外学習「みんなでお風呂屋さん・ラーメン屋さんに行こう」</div> <ul style="list-style-type: none"> ・お風呂は気持ちいいな。男湯と女湯がある。何を注文しよう。おいしいな。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">もう一度、ダンボールタウンで遊んで、さよならしよう</div>

他单元へ

図1 単元の展開

(6) 単元の成果と課題

ダンボールを使っての制作活動では、一人一人の楽しみが含まれており、集中して意欲的に活動に取り組むことができました。家族のことや絵を描くことが好きな子どもは、4人家族をイメージして家を作り、内側には家族の絵や自分の家にあるものを描いていました。またブロックや紙工作が好きな子どもは、大きな直方体のダンボールをいくつも組み合わせて自分のラーメン屋さんの建物を作っていました。

また「ダンボールタウンで遊ぶ」という設定によって、一人一人が製作したものがダンボールタウンという共有した空間を作り、友だちや教師とのかかわりのある活動へつながっていくことができました。さらに、集団で遊んだことで個人の製作においてさらにこうしたいというイメージや思いが膨らんでいきました。お風呂屋さんを製作した子どもとところにみんなで入り、ごっこ遊びをしていく中で、今までごっこ遊びをしなかった子どもがからだを洗うまねをする、友だちと譲り合って湯船に入る、友だちと背中を洗い合うといった人と関わった遊びをするなどの姿が見られました。また製作した児童はみんなが来てくれることが嬉しくて、また来てもらえるように、シャワーや鏡など作りたいもの考えることができました。

子どもの願いが達成するための支援や子どもの意欲を高めるための支援についても工夫しました。まず、材料や道具を子どもたちが使いやすいように工夫したり、興味をよリモつと思われる物を用意したことで活動への意欲が高まりました。またプレイルームを学習の場にしたことで、教室より広い場所でダイナミックな活動ができました。教室からプレイルームに移動することで、気持ちが高まり、「ダンボールタウンで作って遊ぼう」の学習に気持ちを切り替えることができましたと思います。ほとんどの子どもは歌をうたいながら元気に移動し、「ダンボールタウン」の部屋の前ではちまきをし道具袋をつけて大工さんに変身すると、さらに気持ちが高まって、「5・4・3・2・1・オープン」の大きな掛け声をかけて部屋に入る様子も見られました。

また、一人一人の思いに合わせた個別の学習の時間を組むことで、本単元の活動での制作や遊びをより満足のいくものとすると同時に、子どもにとってめあてがもちやすくとまりのある生活を創造することができました。製作活動と遊ぶ活動を1時間の授業の中に組み込んだことで、もっと作っていたい子どもの気持ちごとざれがちな場面も少しみられましたが、作る、遊ぶ、さらに作るという連鎖で、気持ちが高まり、その気持ちを持続することができました。

3 単元「うどんやさんいらっしやい」(小学部)

(1) 子どもたちの意欲を高める「単元の醸成期間」について

本校小学部では、単元として授業を展開していく前の準備の期間を「単元の醸成期間」としてとらえ大切に考えています。この期間は、検討している単元が、子どもたちが自分から生き生きと取り組める活動であるか確かめるとともに、子どもたちの活動への意欲を高めていく期間です。そして、この時期の活動を通して、子どもたち一人一人にとって活動への願いややりたいことが明確になったときに「単元の成立」としてとらえています。

この「単元の醸成期間」として最も大切にしていることは、担任が子どもを引っ張って活動させないことです。すなわち、子ども一人一人の日常の姿から、それぞれの興味や関心、またその広がりをとらえていくことが重要と考えています。また同時に、より多くの子どもが共通して関心を示す素材をとらえていきます。こうした「単元の醸成期間」は活動内容によって異なります。数時間の場合、前単元である場合、また本事例のように年間を通して行う場合などがあります。

(2) 本単元における醸成期間について

子どもたちは2年生のときに生活単元学習「おそばやさんいらっしやい」で、畑での蕎麦作り、そばちょこ・おさら作り、ブドウの汁でのランチョンマット作り、調理活動、お店やさんごっこなどを経験してきました(途中、そばアレルギーの児童の転入によりうどんに切り替えました)。毎日同じ活動を繰り返すことで、子どもたちは生活に見通しがもて、準備から片づけまで一人でできるようになったり、そばを切る技術が高まったりしました。また、人とかかわることの楽しさをたくさん体験することで、発語が増えたり、よりはっきりしゃべるようになったりするなどコミュニケーション意欲も高まってきました。

3年生の4月の「今年は畑で何をつくりたい？」の教師の発問に、子どもたちは「ネギ植える。」「大根つくる。」などと答え、うどんを作りたいという気持ちをもっていました。そこで、そうした子どもたちの気持ちを生かし、専門家や友だちをモデルに活動したり、互いに切磋琢磨できるように発展できる本単元を設定しました。



うどんこねこね、いい気持ち

主な活動と子どもの動き・願い	
4/21	<p>「ねえ、畑で何作りたい？」 『トマト』『なす』『キャベツ』『ポップコーン』『ネギ』『大根』 「エー、ネギなんてどうするの？」 『うどんに入れて、うどん食べる。』 「大根は秋だよ。でも大根どうするの?」 『大根すりすりして、うどんに入れる。』『ジェスチャーで大根おろす真似』 「いいねいいね、みんなでうどん食べようね。」</p>
4/28	<p>ネギを畑に植える。</p> <p>「秋の畑に何まきたい?」 『大根』 「大根いいね。どうするの?」 『大根おろし』『大根すりすり』『うどんに入れるの。』</p> <p style="text-align: center;">うどんたべたい・うどんややりたい</p> <p>大根と野沢菜を畑にまく 「松養祭みんながんばったね。うどんを食べに行こう。」</p>
10/23	<p>「暖かいうどんか、冷たいうどんか選んでね。」 やったあ。うれしい。 お家の人と食べたいうどんを選ぶ。</p>
10/26	<p>そば・うどん「みすす」さんで、うどん伸ばしを見て、おじさんと一緒にうどんを切ったり、茹でたりする。 おいしいうどんを食べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『切りたい』といっておじさんと一緒にうどんを切る。 ・友だちが切っているところを見て『ぼくも切りたい』とジェスチャーで表現。 ・おじさんが茹でているところをじっと見つめて『やらせて』と言って、大きな菜箸で、一緒に何回もかき混ぜる。 ・その様子を見ていて『ぼくも。』とジェスチャーでおじさんに頼んでかき混ぜる。 ・厨房で生姜とおろし器を見つけて、おばさんに『やっていい。』と尋ねてすり始める。おばさんから、『ぼくかわいいね。卒業したらおいで』と言ってもらう。
10/27 28	<p>みすすのおじさんとおばさんにお礼の手紙を作る</p> <p>みすすのおじさんから、お礼のビデオレターを見る</p> <p style="text-align: right;">ビデオレター①</p> <p>みんな、お手紙ありがとう。みんなもうどんやさんやるんだって。おじさんみんなのつくったうどん食べてみたいな。おじさん食べに行ってもいいかな。</p> <p>「みんな、どうする?」 『おじさんにあげる。』『うどん食べる。』『レジやる。』 と、ジェスチャーで伝える 「うどんやる。」 「じゃあ、みんなで、うどんややる?」 『はあい。』『挙手』『やる。』『いいよ。』『OK』</p> <p style="text-align: center;">うどんをつくってたべよう</p> <p style="text-align: center;">単元の成立</p>

図 2 本単元における醸成期間

(3) 個別の指導計画との関連

本校の小学部では、平成15年度まで研究テーマを「一人ひとりが主体的に取り組める活動づくりー“楽しみ”をどうとらえ、どう寄り添えばよいかー」とし研究を進めてきました。一人一人の楽しみの根底（何をもってして楽しいのか）をとらえることで、その子どもにどのような支援をしていけばよいか、について追究してきました。その結果、支援を整えていくことによって子どもたちの主体的な活動へとつなげることができると考え、日々実践しています。また、平成

16年度からは、こうした実践を大切にしながら、個別の教育目標を踏まえ、個別の指導計画を活かした授業づくりについて研究を進めています。本校における生活単元学習の進め方と個別の指導計画の教育目標との関連を以下のようにまとめました。

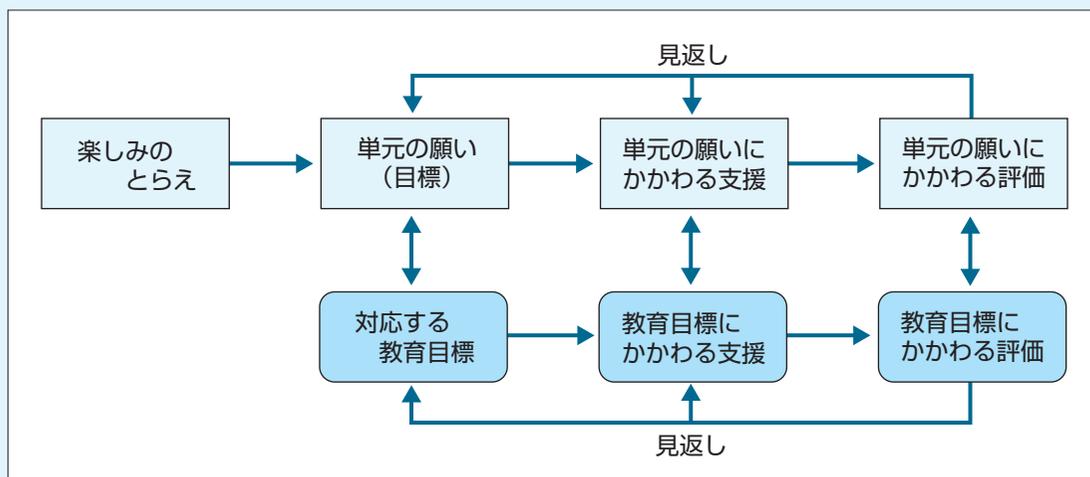


図3 単元評価と個別の教育目標評価

単元の願い（目標）は、生活単元学習を通して、教師が子どもに対してどのように活動してほしいのか、成長してほしいのか具体的な姿で表記します。また単元の願いには、活動性、操作性、社会性という視点（本事例では、活動性と操作性を合わせた視点とした）を設けています。この視点は、本校が目指している子どもの主体的な姿を評価するための重要な視点です。この視点から教育目標、単元の願い、子どもの活動の姿を見ていくと、個別の指導計画と対応した学習の改善・充実のための「見返し」も焦点的に進めていけるのではないかと考えています。

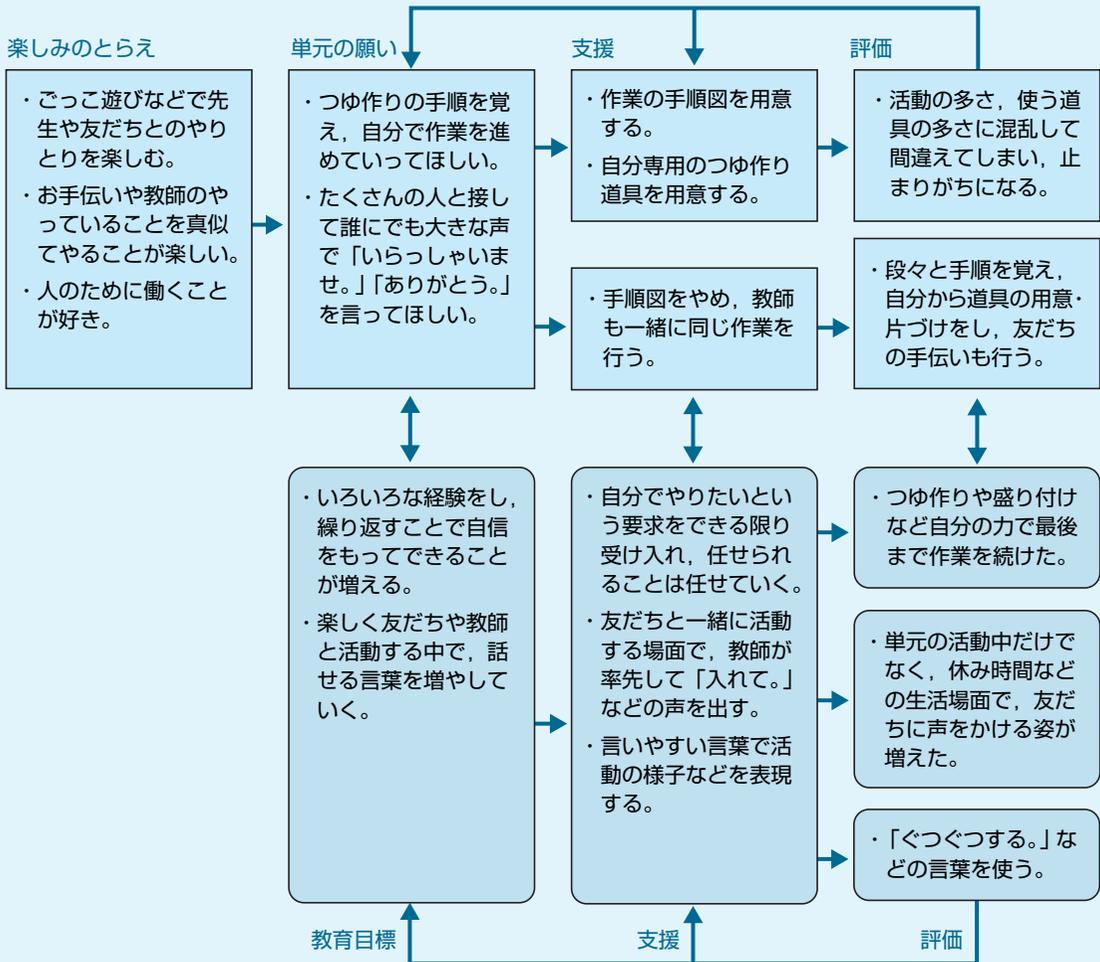
子どもの活動の姿を評価し、支援や単元の願いを見直していく、日々の学習の見返しは重要です。それと同時に教育目標の見返しも単元の展開とともに進めます。日々数名ずつ見返しを行い、単元を通して学習集団全員の見返しを実践しました。「楽しみのとらえ」と単元の願い、そして対応する教育目標を掲載した表に、単元の願いと教育目標、両面から評価した子どもの姿と支援の修正などを記入していきました。

このような見返しを続けて行くと、単元の願いに対しても教育目標に対しても、子どもの成長をより正確に評価できました。そして、教師の支援や設定した活動内容、毎時の学習や単元の展開についても適切であったのかを再検討することができました。教師の支援では、反省点も見え、修正していきました。教育目標に関しては単元での活動の姿だけでなく、生活全般での姿にも目を向けて、来年度の教育目標につながる可能性も見出すことができました。

本単元におけるJさんの例を以下に示します。

見返し

・自分で作業を進めて欲しいため手順図を用意したが、かえって混乱させてしまった。教師が同じ作業と一緒に進めるだけで真似から手順を覚え、一度覚えれば一人で黙々と作業を進めることができた。



見返し

・かつおぶしを炒る様子を教師が表した「ぶつぶつ」という擬音を、実際の活動の中でフライパンに耳を近づけて確認し、作業を進めていた。自分なりにこの擬音の意味や感覚を感じている。こうした姿も今後は大切にしたい。

図4 本単元におけるJさんの単元評価と目標評価

(4) 単元の実際

(1) 本単元について

子どもたちがうどん作りを行う場面で、一人が全行程を行うことも考えられますが、本単元では、その子の好きなこと・今伸びてきている面や技術力を大切に考えて「こねこね」「とんとん」「ぐつぐつ」の3つのグループに分けてうどんを作りました。はじめ、自分の好きな活動ができるようにし、一番やりたいことを子どもたちが自分で決め、グループを作りました。

また、こうした取組の中で、次のことを教師の願う姿として考えました。

- **自己選択・自己決定**：楽しみながら体験し自分の好きなやりたい分担を決めてほしい。
- **手順の見通し**：自分で選んだ分担手順の見通しを（教師や友だちの姿から）もってほしい。
- **作る意欲の高まり**：教師や仲間から認められることで自信をもち意欲的に作ってほしい。
- **本物への意欲の高まり**：専門家との出会いから本物に近いうどん作りを目指してほしい。
- **仲間の認め合い**：仲間の活動や姿勢を認め合いながら、目標達成に向かってほしい。
- **店員さんへの意識**：お客さんの体験を通して自分も店員やってみたいという気持ちをもってほしい。
- **ごっこ遊びを楽しむ**：「今日のお客さんは誰かな。」という期待感をもち、「この人に食べてもらいたい。」との気持ちをもって、うどん作りに励んでほしい。
- **人とかわかることの良さ**：お客さんから認められるなかで、自信をもって接客してほしい。

(2) 単元の展開

本単元は、図5のように展開しました。

このなかで、例えば、<ぐつぐつグループ>では、表3のように指導案を作成し活動しました。さらに、日々の記録については、表4のように全ての子どもたちの記録をフィードバックの表に記入し、次時に生かすように工夫しました。フィードバックの表については事例「ダンボールタウンを作って遊ぼう」において詳しく述べています。



おいしくゆでるかな？



「みずず」でおじさんと

回	主 な 活 動			
1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">うどんこねこね・ふみふみ</div> <p>順番に、うどん粉をこねる。音楽に合わせて、教師や友だちと手をつないで踏み。踏み終えたうどんをしまい、「おいしいうどんになあれ。おやすみなさい。」</p>			
2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">うどんこねこね</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 100px;">うどんとんとん</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 100px;">おつゆぐつぐつ</div>			
3				
4	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">何やろうかな。こねこねもいいな。包丁も使いたいな。ぐつぐつは味見できるしな。</div>			
5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「My (ぼく) こねこね」 とんとんと包丁を切るジェスチャー ぐつぐつの指さし 等それぞれの表現方法で各自が、自分のやりたい活動を決める</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 400px;">がんばるぞー。</div>			
6	<p>こねこねグループのうどんの卵と、あまり上手に切れないとんとんグループの切ったうどん、おつゆぐつぐつグループのつゆをみずずのおじさんに見てもらい、おいしいかどうか聞いてみようか？。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 200px;">おじさんの意見を聞く。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・早速粉を量ろうとする。 ・おじさんの言葉にはっとした顔をする。 ・大変だ。このままじゃお店ができない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 300px; margin-left: 300px;">ビデオレター</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 350px; margin-left: 300px;">うどんのたまごやわらかすぎるな。塩がたりないな。Dさん、もう少し太い方がいいな。つゆももう少しいい方がいいいな。15日行かせてもらうね。もしおいしかったらおじさんののれんを分けてあげよう。</div>			
7				
8	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px;">うどんこねこね</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px; margin-left: 150px;">うどんとんとん</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px; margin-left: 150px;">おつゆぐつぐつ</div>			
9	<p>水は110g 塩は2倍(小さじ2杯) ・もう少し太く 均一に</p>			
10	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 350px; margin-left: 100px;">合格したい。のれんがほしい。</div>			
11	<p>おじさん来校、食べてもらう。 「みんな、がんばってるでのれんを分けよう。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px; margin-left: 550px;">のれんをいただく</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 350px; margin-left: 100px; margin-top: 10px;">うどんやさんができるぞ</div>			
12	朝の会	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">おいしいうどんをつくろう(午前)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">おいしいうどんを作る。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">こねこね とんとん ぐつぐつ</div> <p>おじさんからの注意点を踏まえてよりおいしいうどんを作る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">準備ができたら、お客さんになって食べる。</div> <p>教師から接客をされることでお客さんとしての満足感を得る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">お客さんていいな。お客さんって、うれしいんだな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">こんな気持ちをお客さんにも味わってもらいたいな。おいしいうどんを食べてもらいたいな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">今度はぼくたちが店員さんになろう。やってみたい。</div>		
13	パネルシアター 明日はどんなお客さん来るの お手紙が来たうれしいな	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 50px;">こんな人に来てほしいな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 50px;">おてがみを書こう。</div>		
14				
15				
16		うどんやさんを楽しもう。(午後)		
17		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px; margin-left: 100px;">4年生</div>		
18		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px; margin-left: 100px;">6年生</div>		
19		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px; margin-left: 100px;">家の人</div>		
20		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px; margin-left: 100px;">先生方</div>		
21		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px; margin-left: 100px;">5年生</div>		
22		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px; margin-left: 100px;">2年生</div>		
23	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px; margin-left: 100px;">休 み</div>			
24	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px; margin-left: 100px;">1年生</div>			
25	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px; margin-left: 100px;">給食の先生方</div>			
26	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 300px; margin-left: 100px;"> <div style="text-align: center;">どんぐりみずず開店</div> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; border-right: 1px solid black; padding: 5px;"> <こねこね> (役割) 汁入れ うどん 洗い 店員 店員 </td> <td style="width: 33%; border-right: 1px solid black; padding: 5px;"> <とんとん> (役割) 茹で トッピング 茹で 店員 茹で 店員 </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> <ぐつぐつ> (役割) うどん 盛りつけ 店員 店員 </td> </tr> </table> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 200px; margin-left: 100px; margin-top: 10px;">店員さんって楽しいな。</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 50px; margin-left: 550px; margin-top: 10px;">うどんやさん こっちは楽しい!</div>	<こねこね> (役割) 汁入れ うどん 洗い 店員 店員	<とんとん> (役割) 茹で トッピング 茹で 店員 茹で 店員	<ぐつぐつ> (役割) うどん 盛りつけ 店員 店員
<こねこね> (役割) 汁入れ うどん 洗い 店員 店員	<とんとん> (役割) 茹で トッピング 茹で 店員 茹で 店員	<ぐつぐつ> (役割) うどん 盛りつけ 店員 店員		
27	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 300px; margin-left: 100px;"><どんぐりみずず閉店></div>			
28	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 200px; margin-left: 100px;">おじさんへのプレゼントを作る</div>			
29	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 350px; margin-left: 100px;">プレゼントを持って、のれんを返しにおじさんの店に行く。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px; margin-left: 200px; margin-top: 10px;">また、うどんややりたいな。</div>			

図 5 単元の展開

表3 ぐつぐつグループの指導案例

活 動	Jさんの活動及び手立て
本時の願い	つゆ作りや炒りがつお作りを進めながら、友だちや教師の分もお手伝いをしてほしい。
1 どんぐり隊テーマ曲が流れたら身支度と手洗いをする。	○早くやりたくて身支度を始める。 ◎身支度の確認。
2 調理用具の準備 ・自分のロッカーから道具一式を運ぶ。	○喜んで用意する。 片手鍋・カセットコンロ・小鉢・こし器・スプーン・コップ5個・けずりぶし
3 だし汁を作る。 ①水1カップを鍋に入れる。 ②けずりぶしを量る。 ③けずりぶしを水に入れて火をつける。 ④沸騰するまで待つ。 ⑤火を消してタイマーを5分にセットする。 ⑥こし器でこす。 ⑦かえしとだしを合わせる。 かえし1：だし4 ⑧味見をしてできあがり。	○丁寧にカップの水を鍋に移す。 ○容器いっぱいにはけずりぶしを入れる。(20g) ○自分で火をつける。 ○何度も鍋をのぞいて「ぶくぶく」と言って喜ぶ。 ○スタートボタンを押す。 ○自分でこす。 ○教師の指示で返し1杯とだし4杯のコップを並べる。 ◎手順に沿って声をかける。 ○自分のつゆの味を確かめ、友だちを呼んでくる。
4 炒りがつおを作る。 ①道具の準備。 ②フライパンを火にかける。 ③けずりぶしを入れて炒める。 ④砂糖・しょうゆを入れてまんべんなく混ぜる。 ⑤火を止め、味見をする。 ⑥小鉢にうつす。	○友だちの砂糖やしょうゆも用意する。 フライパン・しゃもじ・小鉢・砂糖・しょうゆ ○みんなに味見してもらいたくて材料をどんどん入れようとする。 ◎ゆっくりできるようにフライパンの中の様子で具体的な言葉かけをする。 ○「できたよー」とみんなのところに見せに行き、味見を勧める。
5 うどんふみふみをする。 うどんこねこねグループの「みんな、うどんのたまごができたよ」のかけ声でふみふみする。	○つゆの洗い物や片づけをする。 ◎「1回踏んだら洗おうね」と踏むことも誘う。
6 うどんやごっこをする。 <お店> ・のれんをだす・お碗を出す・うどんを入れる・つゆをかける・具をのせる。 <お客さん> 廊下で待つ・メニューを決める。	○進んでお店の準備をする。 ○ゆであがったうどんを全員のお碗に分ける。 ◎均等になるように調節する。 ○味わいながら食べる。 ◎緊張して食べられないときは、後で食べられるようになっておく。
7 どんぐり隊終わりの曲を聞いて片づけをする。	○自分が使った食器を流し台に運ぶ。

表4 フィードバック表の例

	Jさん
楽しみのとらえ	・お店やさん、レストラン、乗り物ごっこ等して、先生や友だちとのやりとりを楽しむ。 ・お手伝いや教師のやっていることを真似てやるのが楽しい。 ・人のために働くことが好き。
単元の願い	①つゆ作りの手順を覚え、自分で作業を進めていってほしい。〔活動・操作性〕 ②たくさんの人と接して誰にでも大きな声で「いらっしゃいませ」「ありがとう」を言ってほしい。〔社会性〕
対応する教育目標	1 いろいろな経験をし、繰り返すことで自信をもつことができるが増える。 2 楽しく友だちや教師と活動する中で、話せる言葉を増やしていく。

支援の見返し	
上欄：授業での支援	
下欄：教育目標との関連	
11月22日(月)	店員さんではなく、うどん盛りの仕事を希望する。 →単元の願い(店員さんをする予想)を変更する必要あり。
24日(水)	味を友だちにすすめる時に「くう？」を「食べる？」と言い直して一緒に言う。 砂糖、醤油を小皿に取り分ける適量が難しい。 →「スプーン1つ」の見本を見せて繰り返す。
25日(木)	醤油をこぼす。 →細口ボトルに醤油を入れ替えてあげる。 友だちが汁かけをしない、Jさんがするということで任せる。 →単元の願いを追加しよう。
26日(金)	醤油：細口ボトル、砂糖：広口タッパー →ほぼこぼさずに4皿ほぼ同量によそう。 つゆ、いりがつお作りはなるべく任せる。 →帰りの会で自分から手を挙げ楽しさを発表。

(5) 単元の評価

(1) 自己選択と仲間意識

「こねこね」「とんとん」「ぐつぐつ」の大きく三つのグループに分けたことで、自分の好きな活動を選び、思う存分取り組むことができました。また1グループを3～4人の集団にすることで活動がしやすくなり、教師や仲間のいい姿を間近で見て真似できたり、お互いの良さや頑張りをお互い認めやすくなったりしました。また心配されたグループ間のつながりや一体感については、朝の会のパネルシアターで紹介しあい、同じ教室内という場で顔を見合ったり、姿を見合ったりして活動することを通して意識されていったものと考えています。

(2) 三つの活動の良さ

三つの活動についてはそれぞれに良さがありました。「こねこね」は粉の感触、水と混ぜる時の変わっていく感触という良さなど、「とんとん」には、伸ばすときの手の感触や弾力、のし棒を使うときの力の入れ方の調整、包丁で切ること（体験、技術、あこがれ）、菜箸の使い方などの良さがありました。「ぐつぐつ」には、火の扱い方や注意点の理解、調理器具の扱い方、調味料の加減や味見の必要性などが挙げられます。

(3) 店を開くことの良さ

店を開くことで、人とのかかわりが広がりました。まず、自分たちがお客さんになって教師から接客を受け食べることで、喜びや満足感を感じることができました。その気持ちの高まりがお客さんに食べてもらいたい、喜んでもらいたいという気持ちにつながります。毎日いろいろなお客さんが来てくださることで、子どもたちは、期待を込めた緊張感（今日はあの人が来てくれる、「おいしい」って言ってくれるかな）をもって取り組みました。さらに、自分たちのうどんのできばえや接客態度に対し、その場で具体的な賞賛を受けることができました。廊下ですれ違った職員から、「おいしかったよ。ありがとね。」と声をかけられ、自分なりの言葉で「ありがとう。」とお辞儀をする子や、給食の先生や高学年に「明日、うどんやに来てね。」と自分から声をかけるといった子どもの姿が多く見られました。

また、店を開き、お客さんを招くために、招待や宣伝、店作りなどで多様な活動が生まれ、学級でのいろいろな時間に取り組むことで、活動の広がりもみられました。

(4) 素材のよさ

うどんの素材は、粉を手につける、上から落としてみるなどしてさらさら感を楽しめます。また、水を少しずつ入れていくことで、バラバラ、グニュグニュと感触が変わっていく様子も味わうことができました。さらに、そばに比べてこねやすい、伸ばしやすい、破れにくいといった特徴があり、子どもたちだけの力で取り組みやすい素材でした。製麺器も使えるため、包丁が上手に出来ない子どもでも満足感のもてる活動ができました。

(5) 具体的な支援

教材・教具についても、出口が細くなった水入れ容器や、両手持ちののし棒、均等に切ることのできるすじ入りののし板など、単元をすすめる中で子どもの実態に応じて工夫していきました。また、「ふみふみ」の活動では、リズムよくテンポよく楽しく踏めるような曲想の「おいしいうどんになる歌」を歌いました。

※ 2、3の事例は、小学部における実践を再構成したものです。